

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 生徒が実感できる学・体力の向上 2 生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進 3 メリハリのある生徒指導のステップアップ 4 地域に開かれた学校の実現
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	学習環境の基盤は整備されたので、今年度は、生徒が積極的に授業参加するような活力ある授業実践が望まれる。教員の指導力の向上と生徒の実態に即した授業展開の工夫や相対的な学力を可視化しながら学力の向上を図る必要がある。	生徒が実感できる学・体力の向上	①英語・数学の習熟度別授業を実施するとともに、授業アンケートを実施し、協調学習などを取り入れた効果的な授業改善を図る。 ②英検・漢検の全員合格に向けての気運を高めるプロジェクトを実施する。 ③外部模試を年2回行い、相対的な学力の伸びを測定する。 ④グローバル教育を推進し、国際理解を深め、外向き志向の人材の育成を図る。	①教科内授業公開・研修は行われたか。新たな授業展開を取り組む等、授業改善が図られたか。 ②英検・漢検全員合格を目標とした校内での気運を醸成する取組は行われたか。 ③外部模試のデータを蓄積・分析し、生徒にフィードバックすることできたか。 ④グローバル教育を推進する取組は実施されたか。	①経験豊富な再任用教諭による研究授業、また4名の教諭が協同学習による公開授業と教科会を実施した。さらに定期考査を行った全科目の授業アンケートを実施し、授業改善を行った。 ②学年ごとにポスターを掲示する等、気運を高めて英検・漢検の全員受験を実施した。1学年英検合格率は38.6%であった。 ③4月、2月に外部模試を実施し、学力の伸長を本年度中に確認する。 ④EU、アメリカ、中国それぞれの関係者からの講演会を実施し、国際理解を深めた。	A
2	社会の変化に対応しながらワンランク上の進路実現に挑戦する意欲を高め、生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導を推進する必要がある。特に四年制大学などの進学希望者に対する情報収集と研究を行い、保護者の進路意識も向上させ、上位校への一般受験者の増加が課題である。	生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進	①進路に対する意識向上を図り、進路決定率95%以上を目指す。 ②最新の大学情報を収集・提供し、上位校に挑戦する気運を高める。 ③進路ガイダンスや教員研修を実施し、併せて、保護者への啓発活動を積極的に行う。 ④進路実績の向上に直結するように教育課程の見直しを図る。	①進路決定率95%、就職内定率100%は達成できたか。 ②最新の大学情報を収集・提供し、一般受験をする生徒のための環境づくりはできたか。センター試験受験者数は増加したか。 ③効果的な進路指導は行われたか。保護者との連携を深め、有効な啓発活動は実施できたか。 ④教育課程の見直しは図られたか。	①現在、全体の進路決定率は、86.2%、就職内定率は100%である。 ②教員が進路研修会・説明会に参加し、情報を収集した。一般受験生徒に対しての進路指導・補習等を実施し、環境整備を図った。センター試験受験者は増加しなかった。 ③PTA役員と教員で先進校視察を行った。 ④進路実現のための教育課程の見直しを検討している。	B
3	継続的な登校指導、整容指導により、1年間で大きな成果がでたが、遅刻件数や挨拶については課題が多い。基本的な生活習慣を確立させ、生徒自らが考え、行動できるよう組織的に生徒指導に取り組む必要がある。	メリハリのある生徒指導のステップアップ	①“ならぬことはならぬ”指導を継続し、基本的な生活習慣を定着させ、組織的に生徒指導に取り組む。 ②日々の学校活動において陰ながら努力する生徒を表彰する。 ③アルバイトの許可制を運用することで部活動に目を向けさせ、他校と交流を深め、刺激を受けながら部活動の活性化を図る。	①登校指導、整容指導を継続し、遅刻件数は減少したか。また、自ら挨拶するようになったか。 ②校内表彰を2回以上実施することができたか。 ③他高校や中学校と交流し、部活動の活性化を図り、実参加率を向上させることができたか。	①毎日の登校指導、継続的な整容指導を組織的に実施した。1学期の遅刻率は1.1%、2学期が2.0%であったが、学年によりばらつきがあった。自ら挨拶する生徒の割合は1学期は58.3%、2学期は69.5%であった。 ②校内表彰は実施できなかったが、交通安全標語を募集し、横断幕を作成・掲示した。 ③各部の目標・スローガンを掲示し、学校全体の意欲を高めた。各部活動・生徒会での他校との交流が図られた。	A
4	「地域の学校」でありながら、閉鎖的な部分が残っている。地域や保護者、地元小中学校との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する必要がある。また、生徒会活動を充実させ、リーダー層の育成も課題である。	地域に開かれた学校の実現	①授業公開週間や体育祭の公開を実施し、開かれた学校づくりを推進する。 ②生徒会自らが発案企画し実施できるような意識づくりに努め、生徒会活動を活性化させ、地域の行事に積極的に参加し、リーダーシップの養成を図る。 ③学校説明会の内容や実施時期を検討し、昨年比20%以上参加者数を増加させる。 ④HPやメディアを積極的に活用し、情報発信する。	①授業公開、体育祭公開の来校状況はどうか。 ②地域との交流回数を増加することができたか。生徒会が発案企画した取組は実施できたか。 ③学校説明会の中学生、保護者の参加数は増加したか。 ④HPの更新は月3回以上行われたか。部活動の活動状況は更新されたか。メディアへの情報提供は行われたか。	①誰でもが来校できる授業公開を2回実施した。体育祭も一般公開とし、261名が来校した。 ②地域主催のイベント等に積極的に参加し、交流を深めた。また生徒会による挨拶運動を実施している。 ③3回の学校説明会の中学生・保護者の参加数は916名であり、昨年より10.5%減であった。 ④学校行事、部活動の様子を適宜HPで更新した。また、メディアに対しても9回情報提供し、ケーブルTV等に取り上げられた。	B

学校関係者評価	実施日 平成27年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・授業アンケートが実施できたのは校長先生のリーダーシップが大きい。結果を見ても、先生方のしっかりとしたフォローあると感じた。(評議員)</p> <p>・先生方のサポートもしっかりしており、入学させてよかったと思っている。このまま続けて欲しい。(保護者)</p> <p>・検定に向けて課題をこなす中で「勉強が楽しくなくなった」と感じるようになったことは素晴らしい。今後も努力を重ねて欲しい。(評議員)</p> <p>評価は「A」とする。</p> <p>・先生方は生徒たちの将来を考えて良い環境を提供しようとしている。入学させてよかったと思う。(保護者)</p> <p>・友人や先生方のサポートが手厚く、受験直前でも人間関係でギスギスすることもなく、友人たちが温かく見守ってくれて嬉しく思う。先生方の進学補習についても感謝している。(保護者)</p> <p>評価は「B」とする。</p> <p>・生徒指導の成果がでている。中学校にも情報は伝わっている。引き続き、継続した指導を望む。(評議員)</p> <p>・生徒がより授業に集中できる環境づくりをお願いしたい。(保護者)</p> <p>評価は「A」とする。</p> <p>・卒業生からの講演会を実施したということだが、様々な経験をしてきた方の話を聞くことはとても良いことである。また、生徒会が実施している海外への使用済シューズの送付は素晴らしい活動である。(評議員)</p> <p>・地元では交換留学も実施している。是非支援していきたい。(評議員)</p> <p>・生徒会が動くことで学校生活の質を上げることが出来る。期待している。(保護者)</p> <p>評価は「B」とする。</p>